

環境責任を果たすCSR活動

環境安全衛生品質マネジメント

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/2013/environment/>



アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

2012年度の目標

・重大事故災害0件、休業災害0件
 ・無傷害事故0件

評価



化学物質の管理

アクションプラン

・化学物質に対する規制を順守する

2012年度の目標

・化学物質規制に関する教育プログラムの充実
 ・化学品コンプライアンスのボトムアップ
 ・MSDgen運用の効率化を推進
 ・上市品および開発品SDSの作成

評価

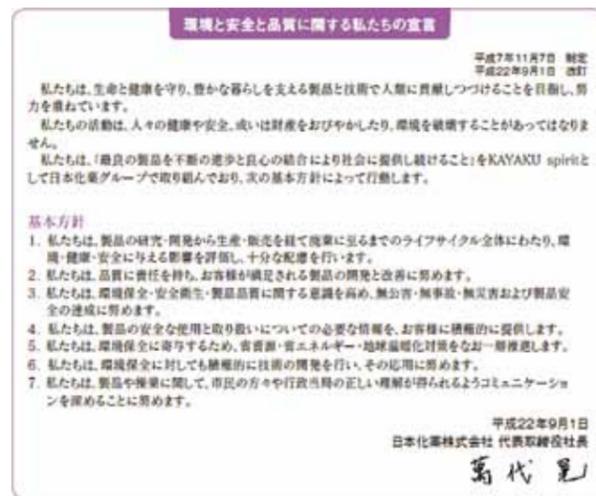


「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」

CSR理念とレスポンシブル・ケア精神^{※1}のもと、日本化薬グループは環境保全・安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」を制定し、組織的な活動を行っています。

※1【レスポンシブル・ケア】(Responsible Care)

化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、自ら積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した対策を行う活動。1985年にカナダで誕生した後、世界に拡がり現在では50カ国で実施されています。



全社における環境安全衛生・品質管理体制

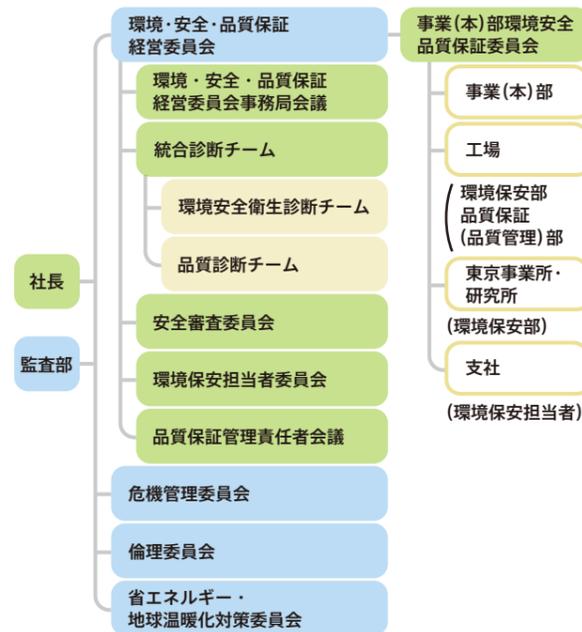
日本化薬グループでは、社長を委員長とする環境・安全・品質保証経営委員会を中心とした管理体制により、環境安全衛生の確保、品質保証の維持と向上のために組織的な活動として海外4工場を含め中央環境安全・品質(統合)診断などを行っています。

日本化薬グループでは、優れた品質の製品・サービスを環境に配慮しながら開発・提供し、お客様に信頼され満足いただくために、環境管理の国際規格であるISO14001および品質保証の国際規格であるISO9001の取得を進めます。

環境管理マネジメントシステムISO14001については1998年から認証取得を開始し、日本化薬6工場で認証を取得後、海外を含むグループ会社も認証取得を進めています。

また品質保証マネジメントシステムISO9001の認証取得は1995年から工場を中心に開始し、その後は事業部、研究開発部門、海外を含むグループ会社で取得を進めています。

■環境・安全衛生・品質組織体制



化学物質の管理

世界的な化学物質管理強化の動きの中で、国内外の化学物質関連法令を順守すること、お客様からの製品含有化学物質に関するご要望に的確に対応していくことが、ますます重要になってきています。

こうした流れを受けて、機能化学事業本部では2012年6月に化学物質管理室を設置し社内管理体制を整備しました。化学物質管理室では各国法規制の最新情報入手並びに関係部門への対応指示の他、化学物質関連法令全般の教育実施により、化学品コンプライアンスの維持・向上に努めています。

また、機能化学研究所内に化学物質管理室の駐在を配置し、製品の安全性、法適合性確認を開発段階から徹底する

ようにしました。2013年度も引き続き欧州のREACH規則^{※1}やCLP規則^{※2}、中国、韓国における法令改正等に確実に対応していきます。

※1【REACH規則】(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) EUにおける化学品の登録・評価・認可および制限に関する規則。
 ※2【CLP規則】(Regulation on Classification, Labelling and Packaging of substances and mixtures) GHSをベースとしたEUにおける化学品の分類、表示、包装に関する規則。

GHSへの対応

各国のGHS^{※3}導入に伴い、現地法令・規格に適合したSDS^{※4}を現地語で提供することが求められるようになっていきます。機能化学事業本部では豊富な対訳、各国法規データ、物性・毒性データを装備したSDS作成システム(MSDgen)を導入し、現地法令・規格に適合したSDSを提供しています。2013年のシステムアップデートでは米国版GHSに対応し、すでに対応済みの日欧、アジア諸国と合わせて一段の充実を図りました。

また、SDSおよびその提供履歴についてもデータベースを利用して管理を行い、常に最新の情報を提供することを心がけています。

※3【GHS】(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム。
 ※4【SDS】(Safety Data Sheet) 化学物質安全性データシート。



GHSラベルの一例

環境責任を果たすCSR活動

エネルギー・マテリアル・バランス

2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組みを実施しています。2012年度は2012年4月1日から2013年3月31日を対象期間としています。

アクションプラン

- ・ 化学物質排出量の削減
- ・ 廃棄物の発生量の抑制
- ・ 地球温暖化を防止

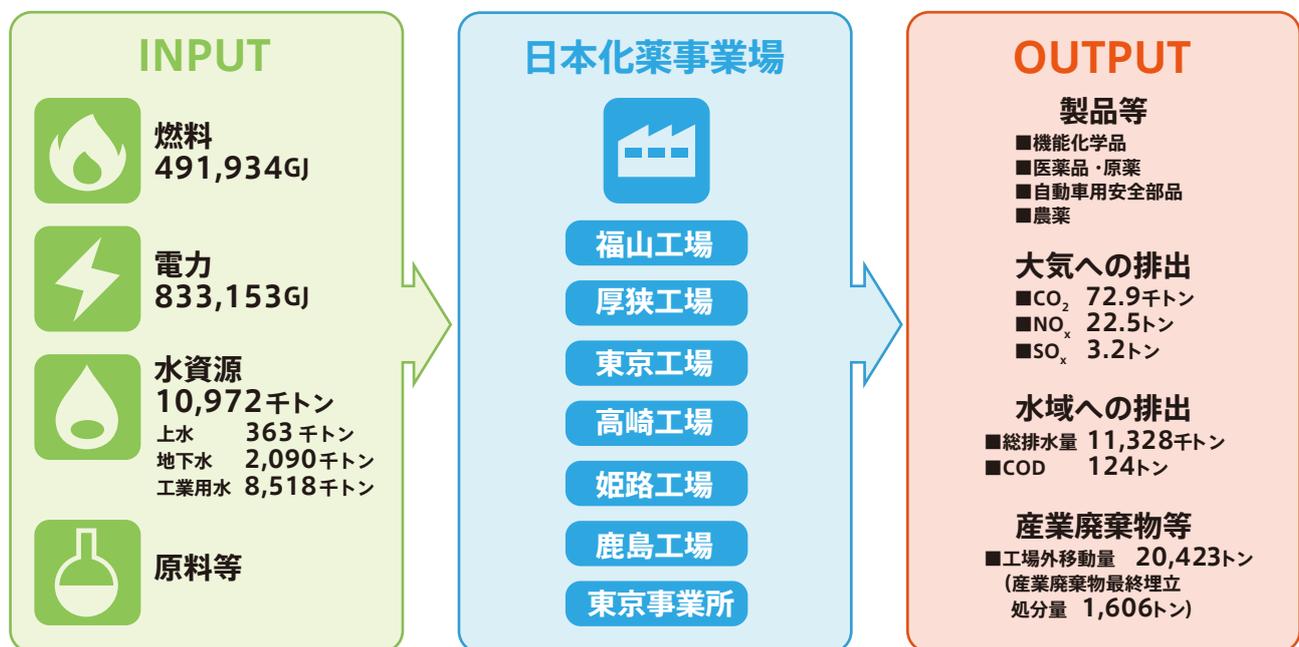
評価



2012年度の目標

- ・ 中期環境マスタープランの実現

事業活動と環境負荷の全体像



中期環境マスタープラン(2011~2020年度)

分野	項目	2020年度目標値	2012年度	内容
化学物質 排出量削減	VOC ^{※1} 排出量	45 トン以下	81.4 トン	前年度と比較して 11.1% 減となりました。
	COD ^{※2} 排出量	180 トン以下	124 トン	前年度と同等となりました。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{※3} (生産部門+業務部門)	15%以上削減	72.9 千トン	CO ₂ 排出量は前年度よりも 3.8% 減となりました。 1990 年度比では 24.2% 削減となっています。
廃棄物削減	廃棄物発生量	30,000トン以下	20,423 トン	前年度と比較して 8.4% 減となりました。
	リサイクル率	70%以上	61.8%	前年度と比較して 1.7% 減となりました。リサイクル率を上げる 努力はしていますが、2012 年度は、有機溶剤の使用量そのものを 減らしてきており、リサイクル率が下がりました。
	ゼロエミッション率 ^{※4}	3%以下	7.9%	埋立廃棄物を減らす努力を続けています。

※1【VOC】 Volatile Organic Compounds.揮発性有機化学物質。ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含みます。

※2【COD】 Chemical Oxygen Demand. 化学的酸素要求量。排水中の被酸化性物質を一定の条件下で酸化剤により酸化し、そのときに使用した酸化剤の使用量から、被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量を換算した指標のこと。CODの値が高いということは、それだけ水中の酸素を消費する有機化学物質等が多く含まれており、汚染度が高いことを示します。

※3【エネルギー起源CO₂ 排出量】 1990 年度(96.2 千トン)を基準としています。

※4【ゼロエミッション率】 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。